

DISCLOSURE

平成29年度 経営情報



~えがお ひろがる~

大阪貯蓄信用組合

<http://osakachochiku.com>

●ごあいさつ

皆さまには、日頃より格別のご愛顧お引き立てを賜わり、心から御礼申し上げます。
このたび、当組合の現況(平成29年度第66期)をまとめましたので、ご理解を深めていただくための資料として、ご高覧賜わりたいと存じます。

大阪貯蓄信用組合は、地域の皆さまに本当にお役に立てる金融機関をめざし、これまで以上に経営の健全性と基盤強化に努めてまいりますので、一層のご支援とご指導のほど、心からお願い申し上げます。

大阪貯蓄信用組合
代表理事／古知 貴恵子

●当組合のあゆみ(沿革)

■ 昭和 27 年 3 月	昭和信用組合として天王寺区に設立。
■ 昭和 28 年 7 月	北支店を北区に開設。
■ 昭和 29 年 8 月	大阪貯蓄信用組合に名称変更。
■ 昭和 33 年 7 月	本店を新築、東区に移転。
■ 昭和 34 年 3 月	生野支店を生野区に開設。
■ 昭和 38 年 10 月	東支店を城東区に開設。
■ 昭和 62 年 9 月	本部、本店営業部を淀川区に移転、北支店を廃止する。
■ 平成 4 年 2 月	信組情報サービスに加入。オンライン開始、ATM設置。
■ 平成 9 年 3 月	設立45周年を迎える。
■ 平成 12 年 3 月	窓口端末機・新機種を導入する。
■ 平成 14 年 3 月	設立50周年を迎える。
■ 平成 19 年 3 月	設立55周年を迎える。
■ 平成 23 年 11 月	東支店を東成区に移転オープン。
■ 平成 24 年 3 月	設立60周年を迎える。
■ 平成 26 年 3 月	本部、本店営業部新築オープン。
■ 平成 29 年 3 月	設立65周年を迎える。

●事業方針

■基本方針 地域の発展に奉仕します

組合存在価値(Value)向上(Innovation)

差別化→ 小回りの利く便利屋信用組合 ←存在価値

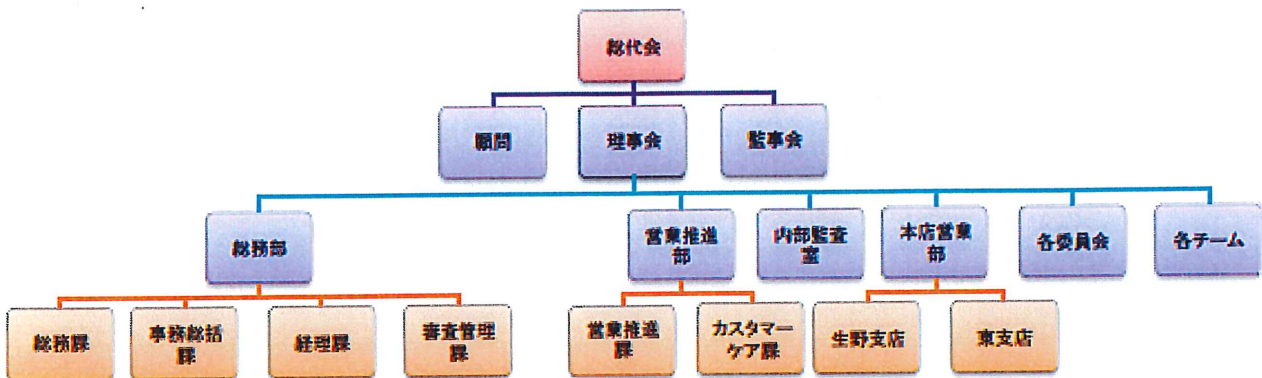
当組合は地域の企業、人々の生活に役立つ金融機関として、「お客様にとっての価値」の創出による「組合存在価値の向上」を目指します。長年の当組合の経営理念である「堅実経営」を「お客様にとっての価値」の追求に活かし、「地元のお客様が預けて安心、取引して安心」な地域密着度No.1金融機関となることを目指します。

■経営方針 堅実経営に徹します

当組合の経営方針は一貫して「堅実経営」

地面を踏みしめながら、感触を確かめながらの堅実経営で本年創業66年を迎えました。この経営方針は今後も貫いてまいります。

●事業の組織



●役員一覧(理事及び監事の氏名・役職名)

(平成30年6月20日現在)

代表理事	古知 貴恵子 (医学博士、Dr.med)
理事	舩井 一仁 (弁護士)
理事	ROBERTO D P-MARQUI (ALM)
監事	川島 育也 (公認会計士)
監事	石橋 正紀 (公認会計士)
監事	島添 浩 (税理士)

●会計監査人の氏名又は名称

該当なし

●平成29年度 経営環境・事業概況

平成29年度の経済動向を振り返ると、景気は緩やかに改善しており、輸出は、足元で増勢鈍化の動きがみられるものの、増加基調は崩れておりません。

企業部門では、好業績のもと雇用環境は改善しており、所得面においても労働受給の逼迫を背景に賃金上昇がみられます。所得・雇用環境が良好なもとで、個人消費は持ち直し傾向にあった一年でした。

そうした中で、私達、信用組合が取り組むべき主な経営課題としては、地方経済や特性に関する独自の知見を活かして、地域の課題に対しての金融サービスの提供や金融犯罪等への取り組みの強化に取り組んでいるところです。

平成29年度業績は、当期利益20百万円、自己資本比率10.20%となりました。平成30年度は、「金融機関業務を通じて地域の発展に貢献していく」「堅実経営」という基本的な考えのもと、『マシュマロシヨコラ型金融機関』をコンセプトに、地域と共存共栄、持続可能なかたちでの地域貢献を目指してまいります。

組合員の皆様には、一層のご支援、ご鞭撻をお願いいたします。

●組合員の推移

(単位:人)

区 分	平成28年度末	平成29年度末
個 人	1,856	1,835
法 人	153	150
合 計	2,009	1,985

●貸借対照表

(単位:千円)

科目 (資産の部)	金額		科目 (負債の部)	金額	
	平成28年度	平成29年度		平成28年度	平成29年度
現金	740,297	607,221	預当座預金	18,625,258	18,140,456
預金	5,130,953	4,284,155	普通預金	47,704	56,887
預入手形	-	-	貯蓄預金	2,888,813	2,894,493
コールド先勤定	-	-	通知預金	-	-
買入先勤定	-	-	定期預金	15,440,849	14,935,471
債券貸借取引支払保証金	-	-	定期積	238,968	246,098
買入金銭債権	-	-	その他の預金	8,923	7,505
金銭の信託	-	-	譲渡性預金	-	-
商品有価証券	-	-	借入金	-	-
商品国債	-	-	借入金	-	-
商品地方債	-	-	当座借越	-	-
商品政府保証債	-	-	再割引手形	-	-
その他の商品有価証券	-	-	売渡手形	-	-
有価証券	10,430	10,430	コールドマネ	-	-
国債	-	-	赤現先勤定	-	-
地方債	-	-	債券貸借取引受入担保金	-	-
短期社債	-	-	コマシヤル・ペーパー	-	-
社債	-	-	外国為替	-	-
その他の証券	10,430	10,430	外国他店預り	-	-
貸出	13,632,247	14,182,490	外国他店借	-	-
割引手形	3,838	6,199	売渡外国為替	-	-
手形貸付	1,100	3,000	未払外国為替	-	-
手形貸書	13,572,955	14,133,465	その他負債	112,168	85,235
当座貸越	54,352	39,825	未決済為替	1,443	3,115
外国為替	-	-	未払費用	96,649	69,792
外国他店預け	-	-	給付補填備金	248	260
外国他店貸	-	-	未払法人税等	740	740
買入外国為替	-	-	未前受取	6,947	5,473
取立外国為替	-	-	払戻未済金	1,020	1,050
その他資産	210,762	189,939	職員預り	-	-
未決済為替	3,306	2,372	先物取引受入証拠金	-	-
全信連出資	93,900	93,900	先物取引差金勘定	-	-
前払費用	-	-	借入金商品債券	-	-
未取収益	11,756	9,421	借入金有価証券	-	-
先物取引差入証拠金	-	-	売付商品債券	-	-
先物取引差金勘定	-	-	金融派生商品	-	-
保管有価証券等	-	-	金融商品等受入担保金	-	-
金融派生商品	-	-	リース債	-	-
金融商品等差入担保金	-	-	資産除去債務	-	-
リース投資資産	-	-	その他の負債	5,119	4,803
その他の資産	101,799	84,244	賞与引当金	-	-
有形固定資産	567,291	537,002	役員賞与引当金	-	-
建物	388,353	368,315	退職給付引当金	-	-
土地	133,459	133,459	役員退職慰労引当金	75,743	78,171
リース資産	-	-	特別法上の引当金	-	-
建設仮勘定	-	-	金融商品取引責任準備金	-	-
その他の有形固定資産	45,478	35,227	繰延税金負債	-	-
無形固定資産	1,967	1,794	再評価に係る繰延税金負債	-	-
ソフトウェア	504	331	債務保証証	28,489	28,628
のれん	-	-	負債の部合計	18,841,660	18,332,492
リース資産	-	-	(純資産の部)		
その他の無形固定資産	1,463	1,463	出資	612,303	611,863
前払年金費用	-	-	普通出資金	612,303	611,863
繰延税金資産	16,003	7,064	優先出資金	-	-
繰延税金資産	-	-	その他の出資金	-	-
再評価に係る繰延税金資産	-	-	優先出資申込証拠金	-	-
債務保証見返	28,489	28,628	優先出資申込証拠金	-	-
償倒引当金	△ 46,476	△ 47,474	資本剰余金	-	-
(うち個別償倒引当金)	(△ 560)	(△ 560)	資本準備金	-	-
			その他資本剰余金	-	-
			利益剰余金	838,002	856,896
			利益準備金	237,000	237,000
			その他利益剰余金	601,002	619,896
			特別積立金	481,000	481,000
			当期未処分剰余金	120,002	138,896
			自己優先出資	-	-
			自己優先出資申込証拠金	-	-
			組合員勘定合計	1,450,305	1,468,759
			その他の有価証券評価差額金	-	-
			繰延ヘッジ損益	-	-
			土地再評価差額金	-	-
			評価・換算差額等合計	-	-
			純資産の部合計	1,450,305	1,468,759
資産の部合計	20,291,966	19,801,251	負債及び純資産の部合計	20,291,966	19,801,251

(注)

1. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。なお、以下の注記については、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

2. 有価証券の評価は、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

3. 有価固定資産の減価償却は、定率法（ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法）を採用しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建 物	8～38年
その他	2～20年

4. 無形固定資産の減価償却は定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては当組合内における利用可能期間（5年）に基づいて償却しております。

5. 貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」（日本公認会計士協会・銀行等監査特別委員会報告第4号）に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権については、一定の種類毎に分類し、税法基準に基づき3.3/1000の額を引当てております。破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を引当てております。

全ての債権は、資産の自己査定基準に基づき、各営業店の協力の下に総務部審査管理課が資産査定を実施しており、その査定結果により上記の引当てを行っております。

6. 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。

なお、当組合は、複数事業主（信用組合等）により設立された企業年金制度（総合型厚生年金基金）を採用しております。当該企業年金制度に関する事項は次のとおりです。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項（29年3月31日現在）

年金資産の額	358,256百万円
年金財政計算上の数理債務の額と 最低責任準備金の額との合計額	<u>312,095百万円</u>
差引額	46,161百万円

(2) 制度全体に占める当組合の掛金抛出割合（自28年4月1日 至29年3月31日）0.149%

(3) 補足説明

上記(1)の差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高25,609百万円（及び別途積立金71,770百万円）である。本制度における過去勤務債務の償却方法は期間20年の元利均等償却であり、当組合は当期の計算書類上、特別掛金2百万円を費用処理している。

7. 役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見込額のうち、当事業年度末までに発生していると認められる額を計上しております。

8. 所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年4月1日前に開始する事業年度に属するものについては、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。

9. 消費税および地方消費税の会計処理は、税込方式によっております。

10. 有形固定資産の減価償却累計額 265,243千円

11. 貸出金のうち、破綻先債権額は560千円であります。

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払いの遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込がないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払いを猶予した貸出金以外の貸出金であります。

12. 貸出金のうち、3か月以上延滞債権額は39,176千円であります。

なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払いが約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

13. 破綻先債権額、延滞債権額及び3か月以上延滞債権額の合計額は39,736千円であります。

なお、11. から13. に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

14. 貸借対照表に計上した有形固定資産のほか、複写機についてリース契約により使用しています。

15. 手形割引により取得した銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形の額面金額は、4,988千円であり
ます。

16. 担保に提供している資産は、次のとおりであります。

担保提供している資産	現金	1,000千円
	預け金	104,700千円
担保資産に対応する債務	該当ありません。	

上記のほか、為替取引のために預け金500,000千円を担保として提供しております。

17. 出資一口当たりの純資産額は240円4銭であります。

18. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当組合は、預金業務、融資業務および市場運用業務などの金融業務を行っております。

このため、金利変動による不利な影響が生じないように、資産及び負債の総合的管理（ALM）をして
おります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

当組合が保有する金融資産は、主として事業地区内のお客様に対する貸出金です。また、有価証券は
株式であり、純投資目的及び事業推進目的で保有しております。これらは、それぞれ発行体の信用リス
クに晒されております。

一方、金融負債は主としてお客様からの預金であり、流動性リスクに晒されております。

また、変動金利の預金については、金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスクの管理

当組合は、信用リスクに関する管理諸規程に従い、貸出金について、個別案件ごとの与信審査、与信限度額、信用情報管理、保証や担保の設定、問題債権への対応など与信管理に関する体制を整備し運営しております。

これらの与信管理は、各営業店のほか営業推進部により行われ、また、定期的にALM委員会や理事会を開催し、審議・報告を行っております。

さらに、与信管理の状況については、総務部審査管理課がチェックしております。

有価証券の発行体の信用リスクに関しては、総務部経理課において、信用情報や時価の把握を定期的に行うことで管理しております。

② 市場リスクの管理

(i) 金利リスクの管理

当組合は、ALMによって金利の変動リスクを管理しております。ALMに関する規則及び要領において、リスク管理方法や手続等の詳細を明記しており、ALM委員会において決定されたALMに関する方針に基づき、理事会において実施状況の把握・確認、今後の対応等の協議を行っております。

日常的には総務部において金融資産及び負債の金利や期間を総合的に把握し、ギャップ分析や金利感応度分析等によりモニタリングを行い、適宜理事会に報告しております。

③ 資金調達に係る流動性リスクの管理

当組合は、ALMを通して、適時に資金管理を行うほか、資金調達手段の多様化、市場環境を考慮した長短の調達バランスの調整などによって、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。なお、一部の金融商品については、簡便な計算により算出した時価に代わる金額を含めて開示しております。

19. 金融商品の時価等に関する事項

平成30年3月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式等は、次表には含めておりません（注2）参照）。

また、重要性の乏しい科目については記載を省略しております。

（ 単位：百万円 ）

	貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 預け金	4, 284	4, 253	△31
(2) 貸出金(*1)	14, 182		
貸倒引当金(*2)	△47		
	14, 135	15, 483	1, 348
金融資産計	18, 419	19, 736	1, 317
(1) 預金積金	18, 140	19, 046	906
金融負債計	18, 140	19, 046	906

(*1) 貸出金の「時価」には、「簡便な計算により算出した時価に代わる金額」が含まれておりません。

(*2) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。

(注1) 金融商品の時価等の算定方法

金融資産

(1) 預け金

満期のない預け金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額を時価としております。満期のある預け金については、市場金利で割り引くことで現在価値を算定し、当該現在価値を時価とみなしております。

(2) 貸出金

貸出金は、以下の①～②の合計額から、貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除する方法により算定し、その算出結果を簡便な方法により算出した時価に代わる金額として記載しております。

① 6カ月以上延滞債権等、将来キャッシュ・フローの見積もりが困難な債権については、その貸借対照表の貸出金勘定に計上している額（貸倒引当金控除前の額）。

② ①以外は、貸出金の種類ごとにキャッシュ・フローを作成し、元利金の合計額を市場金利（LIBOR、SWAP等）で割り引いた価額を時価とみなしております。

金融負債

(1) 預金積金

要求払預金については、決算日に要求された場合の支払額（帳簿価額）を時価とみなしております。定期預金の時価は、一定の金額帯および期間帯ごとに将来キャッシュ・フローを作成し、元利金の合計額を一種類の市場金利（LIBOR、SWAP等）で割り引いた価額を時価とみなしております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、金融商品の時価情報には含まれておりません。

(単位：百万円)

区 分	貸借対照表計上額
非上場株式 (*1)	10
組合出資金 (*2)	96
合 計	106

(*1) 非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから時価開示の対象とはしておりません。

(*2) 組合出資金（全信組連出資金等）のうち、組合財産が非上場株式など時価を把握することが極めて困難と認められるもので構成されているものについては、時価開示の対象とはしておりません。

20. 有価証券の時価、評価差額等に関する事項は次のとおりであります。

- (1) 売買目的有価証券に区分した有価証券はありません。
- (2) 満期保有目的の債券に区分した有価証券はありません。
- (3) 子会社・子法人等株式及び関連法人等の株式はありません。
- (4) その他有価証券

【貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの】

該当ありません。

【貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの】

	貸借対照表計上額	取得原価	差 額
株 式	10,430千円	10,430千円	0千円
合 計	10,430	10,430	0

2 1. 当期中に売却した満期保有目的の債券はありません。

2 2. 当期中に売却したその他有価証券はありません。

2 3. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客から融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、5, 879, 601千円であります。このうち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なものが5, 879, 601千円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当組合の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全、その他相当の事由があるときは、当組合が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条件が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている当組合内手続きに基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

2 4. 繰延税金資産及び繰延税金負債の主な発生原因別の内訳は、それぞれ以下のとおりであります。

繰延税金資産

期日指定定期未払利息	0千円
減価償却超過額	111
貸倒引当金	203
役員退職慰労引当金	21,630
所有不動産減損	14,854
未払社会保険料等	288
未払費用(従業員賞与)	2,050
繰越欠損金	4,366
繰延税金資産小計	43,752
評価性引当額	△36,688
繰延税金資産合計	7,064
繰延税金資産の純額	7,064

(単位:千円)

●損益計算書

科 目	平成28年度	平成29年度	科 目	平成28年度	平成29年度
経常収益	444,762	440,885	特別利益	-	-
資金運用収益	421,013	415,928	固定資産処分益	-	-
貸出金利	409,654	406,554	負ののれん発生益	-	-
預け金利	7,132	5,196	金融商品取引責任準備金取崩額	-	-
買入手形利息	-	-	その他の特別利益	-	-
コールローン利息	-	-	特別損失	146	174
買現先利息	-	-	固定資産処分損	146	174
債券貸借取引受入利息	-	-	減損損失	-	-
有価証券利息配当金	300	300	金融商品取引責任準備金繰入額	-	-
金利スワップ受入利息	-	-	その他の特別損失	-	-
その他の受入利息	3,926	3,877	税引前当期純利益	13,099	30,105
役員取引等収益	21,650	21,419	法人税、住民税及び事業税	740	740
受入為替手数料	20,049	19,803	法人税等調整額	6,898	8,939
その他の役員収益	1,601	1,615	法人税等合計	7,638	9,679
その他業務収益	0	0	当期純利益	5,460	20,426
外国為替売買益	-	-	繰越金(当期首残高)	114,541	118,469
商品有価証券売買益	-	-	当期末処分剰余金	120,002	138,896
国債等債券売却益	-	-			
国債等債券償還益	-	-			
金融派生商品収益	-	-			
その他の業務収益	0	0			
その他経常収益	2,097	3,536			
貸倒引当金戻入益	-	-			
償却債権取立益	84	84			
株式等売却益	-	-			
金銭の信託運用益	-	-			
その他の経常収益	2,013	3,452			
経常費用	431,516	410,605			
資金調達費用	68,170	55,678			
預金利	67,918	55,417			
給付補填備金繰入額	251	260			
譲渡性預金利息	-	-			
借入金利息	-	-			
売渡手形利息	-	-			
コールマネー利息	-	-			
売現先利息	-	-			
債券貸借取引支払利息	-	-			
コマニール・ペーパー利息	-	-			
金利スワップ支払利息	-	-			
その他の支払利息	-	-			
役員取引等費用	29,086	26,182			
支払為替手数料	5,321	5,224			
その他の役員費用	23,765	20,957			
その他業務費用	-	-			
外国為替売買損	-	-			
商品有価証券売買損	-	-			
国債等債券売却損	-	-			
国債等債券償還損	-	-			
国債等債券償却	-	-			
金融派生商品費用	-	-			
その他の業務費用	-	-			
経常費用	333,378	327,725			
人件費	193,307	193,300			
物件費	134,391	129,418			
税金	5,679	5,006			
その他経常費用	880	1,019			
貸倒引当金繰入額	842	988			
貸出金償却	-	-			
株式等売却損	-	-			
株式等償却	-	-			
金銭の信託運用損	-	-			
その他資産償却	-	-			
その他の経常費用	38	21			
経常利益	13,245	30,280			

(注) 1. 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。なお、以下の注記について表示単位未満を切り捨てて表示しております。
2. 出資1口当りの当期純利益 3円33銭

●剰余金処分計算書

(単位:千円)

科 目	平成28年度	平成29年度
当 期 未 処 分 剰 余 金	120,002	138,896
積 立 金 取 崩 額	-	-
剰 余 金 処 分 額	1,532	6,121
利 益 準 備 金	-	-
普通出資に対する配当金	1,532	6,121
	(年 0.25%の割合)	(年 1.0%の割合)
優先出資に対する配当金	-	-
	(円につき 円の割合)	(円につき 円の割合)
事業の利用分量に対する配当金	-	-
	(円につき 円の割合)	(円につき 円の割合)
特 別 積 立 金	-	-
繰越金(当期末残高)	118,469	132,774

●粗利益

(単位:千円)

科 目	平成28年度	平成29年度
資 金 運 用 収 益	421,013	415,928
資 金 調 達 費 用	68,170	55,678
資 金 運 用 収 支	352,843	360,250
役 務 取 引 等 収 益	21,650	21,419
役 務 取 引 等 費 用	29,086	26,182
役 務 取 引 等 収 支	△ 7,436	△ 4,763
そ の 他 業 務 収 益	0	0
そ の 他 業 務 費 用	-	-
そ の 他 業 務 収 支	0	0
業 務 粗 利 益	345,408	355,488
業 務 粗 利 益 率	1.75%	1.89%

(注) 1. 業務粗利益率=業務粗利益/資金運用勘定計平均残高×100

●経費の内訳

(単位:千円)

項 目		平成28年度	平成29年度
人	件 費	193,307	193,300
	報 酬 給 料 手 当	160,018	159,403
	退 職 給 付 費 用	3,632	3,428
	そ の 他	29,656	30,468
物	件 費	134,391	129,418
	事 務 費	49,334	48,767
	固 定 資 産 費	14,906	20,140
	事 業 費	10,444	6,845
	人 事 厚 生 費	11,905	10,897
	有 形 固 定 資 産 償 却	39,381	35,373
	無 形 固 定 資 産 償 却	172	318
	そ の 他	8,246	7,075
税	金	5,679	5,006
経	費 合 計	333,378	327,725

●役務取引の状況

(単位:千円)

科 目		平成28年度	平成29年度
役 務 取 引 等 収 益		21,650	21,419
	受 入 為 替 手 数 料	20,049	19,803
	そ の 他 の 受 入 手 数 料	1,601	1,615
	そ の 他 の 役 務 取 引 等 収 益	-	-
役 務 取 引 等 費 用		29,086	26,182
	支 払 為 替 手 数 料	5,321	5,224
	そ の 他 の 支 払 手 数 料	17,586	15,385
	そ の 他 の 役 務 取 引 等 費 用	6,178	5,572

●受取利息及び支払利息の増減

(単位:千円)

項 目	平成28年度	平成29年度
受 取 利 息 の 増 減	△ 32,715	△ 5,085
支 払 利 息 の 増 減	△ 11,229	△ 12,491

●業務純益

(単位:千円)

項 目	平成28年度	平成29年度
業 務 純 益	13,614	29,193

(単位:百万円)

●自己資本の充実の状況

項 目	平成29年度		平成28年度	
		経過措置による不算入額		経過措置による不算入額
コ ア 資 本 に 係 る 基 礎 項 目 (1)				
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る組合員勘定又は会員勘定の額	1,448		1,462	
うち、出資金及び資本剰余金の額	612		611	
うち、利益剰余金の額	838		856	
うち、外郎差引当金の額	1		6	
うち、上記以外に該当するものの額	-		-	
コ ア 資 本 に 係 る 基 礎 項 目 の 額 に 算 入 さ れ る 引 当 金 の 合 計 額	45		46	
うち、一般貸倒引当金	45		46	
うち、酒橋引当金	-		-	
コ ア 資 本 に 係 る 基 礎 項 目 の 額 に 算 入 さ れ る 引 当 金 の 合 計 額	-		-	
うち、酒橋引当金	-		-	
酒橋引当金繰上りの額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
公約機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の45%に相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-		-	
コ ア 資 本 に 係 る 基 礎 項 目 の 額	1,494		1,509	
コ ア 資 本 に 係 る 調 整 項 目 (2)				
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	0	0	1	0
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものの額	-	-	-	-
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	0	0	1	0
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く。)の額	8	5	3	0
酒橋引当金の不足額	-	-	-	-
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	-	-	-	-
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	-	-	-	-
前払年金費用	-	-	-	-
自己保有普通出資等(純資産の部に計上されるものを除く。)の額	-	-	-	-
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	-	-	-	-
少数出資金・金融機関等の対象普通出資等の額	-	-	-	-
信用協同組合連合会の対象普通出資等の額	-	-	-	-
特 定 項 目 に 係 る 10 % 基 準 超 過 額	-	-	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	-	-	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-	-	-
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	-	-	-	-
特 定 項 目 に 係 る 15 % 基 準 超 過 額	-	-	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	-	-	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-	-	-
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	-	-	-	-
コ ア 資 本 に 係 る 調 整 項 目 の 額	8		4	
自 己 資 本				
自 己 資 本 の 額 ((イ) - (ロ)) (ハ)	1,485		1,505	
リ ス ク ・ ア セ ッ ト 等 (3)				
信用リスク・アセットの額の合計額	13,575		14,087	
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	5		1	
うち、無形固定資産(のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)	0		0	
うち、繰延税金資産	5		0	
うち、前払年金費用	-		-	
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	-		-	
うち、上記以外に該当するものの額	-		-	
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8%で除して得た額	669		666	
信用リスク・アセット調整額	-		-	
オペレーショナル・リスク相当額調整額	-		-	
リスク・アセット等の額の合計額	14,244		14,753	
自 己 資 本 比 率 ((ハ)/(ニ))	10.42%		10.20%	

(注) 自己資本比率の算出方法を定めた「信用協同組合による金融事業に関する法律第六条第一項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、信用協同組合及び信用協同組合連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第22号)」に係る算式に基づき算出しております。なお、当組合は国内基準を採用しております。

●主要な経営指標の推移

(単位:千円)

区 分	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
経 常 収 益	505,121	490,147	487,572	444,762	440,885
経 常 利 益	29,217	26,482	31,795	13,245	30,280
当 期 純 利 益	21,954	22,466	32,030	5,460	20,426
預 金 積 金 残 高	19,717,073	19,661,932	19,573,542	18,625,258	18,140,456
貸 出 金 残 高	12,901,566	13,207,555	13,382,151	13,632,247	14,182,490
有 価 証 券 残 高	10,430	10,430	10,430	10,430	10,430
総 資 産 額	21,384,702	21,308,066	21,238,736	20,291,966	19,801,251
純 資 産 額	1,410,029	1,426,559	1,451,891	1,450,305	1,468,759
自己資本比率(単体)	10.85 %	10.55 %	10.54 %	10.42 %	10.20 %
出 資 総 額	613,573	613,773	613,213	612,303	611,863
出 資 総 口 数	6,135,730 口	6,137,730 口	6,132,130 口	6,123,030 口	6,118,630 口
出資に対する配当金	6,136	6,138	6,137	1,532	6,121
職 員 数	27 人	30 人	32 人	31 人	29 人

(注) 1. 残高計数は期末日現在のものです。
2. 「自己資本比率(単体)」は、平成18年金融庁告示第22号により算出してあります。

●資金運用勘定、調達勘定の平均残高等

科 目	年度	平均残高	利 息	利 回 り	
資 金 運 用 勘 定	28年度	19,672 <small>百万円</small>	421,013 <small>千円</small>	2.14 %	
	29年度	18,808	415,928	2.21	
	う ち 貸 出 金	28年度	13,421	409,654	3.05
		29年度	13,779	406,554	2.95
	う ち 預 け 金	28年度	6,144	7,132	0.11
		29年度	4,922	5,196	0.10
	う ち 有 価 証 券	28年度	10	300	2.87
		29年度	10	300	2.87
	資 金 調 達 勘 定	28年度	19,308	68,170	0.35
		29年度	18,366	55,678	0.30
う ち 預 金 積 金		28年度	19,308	68,170	0.35
		29年度	18,366	55,678	0.30
う ち 譲 渡 性 預 金		28年度	-	-	-
		29年度	-	-	-
う ち 借 用 金		28年度	-	-	-
29年度	-	-	-		

(注) 資金運用勘定は無利息預け金の平均残高(28年度35百万円、29年度32百万円)を控除して表示しております。

●先物取引の時価情報

(単位:百万円)

区 分		平成28年度			平成29年度		
		契約額	時 価	差損益	契約額	時 価	差損益
金利	売 建	-	-	-	-	-	-
	買 建	-	-	-	-	-	-
債券	売 建	-	-	-	-	-	-
	買 建	-	-	-	-	-	-
合計	売 建	-	-	-	-	-	-
	買 建	-	-	-	-	-	-
差 引 計		-	-	-	-	-	-

先物取引:取引所に上場された定型商品で、将来の一定期日における価格を現時点において売買する取引のこと。

●オフバランス取引の状況

(単位:千円)

項 目	平成28年度		平成29年度	
	契 約 金 額 想 定 元 本 額	与 信 相 当 額	契 約 金 額 想 定 元 本 額	与 信 相 当 額
金 利 ス ワ ッ プ	-	-	-	-
通 貨 ス ワ ッ プ	-	-	-	-
先物外国為替取引	-	-	-	-
金利オプション(買)	-	-	-	-
通貨オプション(買)	-	-	-	-
その他金融派生商品	-	-	-	-
合 計	-	-	-	-

●総資産利益率

(単位:%)

区 分	平成28年度	平成29年度
総 資 産 経 常 利 益 率	0.06	0.15
総 資 産 当 期 純 利 益 率	0.02	0.10

(注)総資産経常(当期純)利益率=経常(当期純)利益/総資産(債務保証見返を除く)平均残高×100

●総資金利鞘等

(単位:%)

区 分	平成28年度	平成29年度
資 金 運 用 利 回 (a)	2.14	2.21
資 金 調 達 原 価 率 (b)	2.06	2.07
資 金 利 鞘 (a - b)	0.08	0.14

●有価証券の時価等情報

●売買目的有価証券

該当事項なし

●子会社・子法人等株式及び関連法人等株式で時価のあるもの

該当事項なし

●満期保有目的の債券

(単位:百万円)

	種 類	平成28年度			平成29年度		
		貸借対照表計上額	時 価	差 額	貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を 超えるもの	国 債	-	-	-	-	-	-
	地 方 債	-	-	-	-	-	-
	短 期 社 債	-	-	-	-	-	-
	社 債	-	-	-	-	-	-
	そ の 他	-	-	-	-	-	-
	小 計	-	-	-	-	-	-
時価が貸借対照表計上額を 超えないもの	国 債	-	-	-	-	-	-
	地 方 債	-	-	-	-	-	-
	短 期 社 債	-	-	-	-	-	-
	社 債	-	-	-	-	-	-
	そ の 他	-	-	-	-	-	-
	小 計	-	-	-	-	-	-
合 計		-	-	-	-	-	-

- (注)1. 時価は、当事業年度における市場価格等に基づいております。
 2. 上記の「その他」は、外国証券及び投資信託等です。
 3. 時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券は本表には含めておりません。

●時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券 (単位:百万円)

項 目	平成28年度		平成29年度	
	貸借対照表計上額		貸借対照表計上額	
子会社・子法人等株式	-		-	
関連法人等株式	-		-	
非上場株式	10		10	
合 計	10		10	

●その他有価証券

(単位:百万円)

	種 類	平成28年度			平成29年度		
		貸借対照表計上額	取得原価	差 額	貸借対照表計上額	取得原価	差 額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株 式	-	-	-	-	-	-
	債 券	-	-	-	-	-	-
	国 債	-	-	-	-	-	-
	地 方 債	-	-	-	-	-	-
	短 期 社 債	-	-	-	-	-	-
	社 債	-	-	-	-	-	-
	そ の 他	-	-	-	-	-	-
小 計	-	-	-	-	-	-	
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株 式	-	-	-	-	-	-
	債 券	-	-	-	-	-	-
	国 債	-	-	-	-	-	-
	地 方 債	-	-	-	-	-	-
	短 期 社 債	-	-	-	-	-	-
	社 債	-	-	-	-	-	-
	そ の 他	-	-	-	-	-	-
小 計	-	-	-	-	-	-	
合 計	-	-	-	-	-	-	

- (注)1. 貸借対照表計上額は、当事業年度末における市場価格等にもとづいております。
 2. 上記の「その他」は、外国証券及び投資信託等です。
 3. 時価を把握することが極めて困難と認められる有価証券は本表には含めておりません。

●金銭の信託

●運用目的の金銭の信託

(単位:百万円)

平成28年度		平成29年度	
貸借対照表計上額	当事業年度の損益に含まれた評価差額	貸借対照表計上額	当事業年度の損益に含まれた評価差額
-	-	-	-

(注)貸借対照表計上額は、当事業年度末における市場価格に基づいております。

●満期保有目的の金銭の信託

該当事項なし

●その他の金銭の信託

該当事項なし

●その他業務収益の内訳

(単位:百万円)

項 目	平成28年度	平成29年度
外 国 為 替 売 買 益	-	-
商 品 有 価 証 券 売 買 益	-	-
国 債 等 債 券 売 却 益	-	-
国 債 等 債 券 償 還 益	-	-
金 融 派 生 商 品 収 益	-	-
そ の 他 の 業 務 収 益	0	0
そ の 他 業 務 収 益 合 計	0	0

●預貸率及び預証率

(単位:%)

区 分		平成28年度	平成29年度
預 貸 率	(期 末)	73.19	78.18
	(期 中 平 均)	69.50	75.02
預 証 率	(期 末)	0.05	0.05
	(期 中 平 均)	0.05	0.05

(注)1. 預貸率=貸出金/預金積金+譲渡性預金×100
2. 預証率=有価証券/預金積金+譲渡性預金×100

●1店舗当りの預金及び貸出金残高

(単位:百万円)

区 分	平成28年度末	平成29年度末
1 店 舗 当 り の 預 金 残 高	6,208	6,046
1 店 舗 当 り の 貸 出 金 残 高	4,544	4,727

●職員1人当りの預金及び貸出金残高

(単位:百万円)

区 分	平成28年度末	平成29年度末
職 員 1 人 当 り の 預 金 残 高	600	625
職 員 1 人 当 り の 貸 出 金 残 高	439	489

●預金種目別平均残高

(単位:百万円、%)

種 目	平成28年度		平成29年度	
	金 額	構成比	金 額	構成比
流 動 性 預 金	3,051	15.8	3,078	16.7
定 期 性 預 金	16,256	84.1	15,288	83.2
譲 渡 性 預 金	-	-	-	-
そ の 他 の 預 金	-	-	-	-
合 計	19,308	100.0	18,366	100.0

●財形貯蓄残高

(単位:百万円)

項 目	平成28年度末	平成29年度末
財 形 貯 蓄 残 高	-	-

●預金者別預金残高

(単位:百万円、%)

区 分	平成28年度		平成29年度	
	金 額	構成比	金 額	構成比
個 人	17,386	93.3	16,909	93.2
法 人	1,238	6.6	1,230	6.8
一 般 法 人	1,236	6.6	1,228	6.8
金 融 機 関	0	0.0	0	0.0
公 金	1	0.0	1	0.0
合 計	18,625	100.0	18,140	100.0

●定期預金種類別残高

(単位:百万円)

区 分	平成28年度末	平成29年度末
固 定 金 利 定 期 預 金	15,440	14,935
変 動 金 利 定 期 預 金	-	-
そ の 他 の 定 期 預 金	-	-
合 計	15,440	14,935

●貸出金種類別平均残高

(単位:百万円、%)

科 目	平成28年度		平成29年度	
	金 額	構成比	金 額	構成比
割 引 手 形	5	0.0	6	0.0
手 形 貸 付	3	0.0	2	0.0
証 書 貸 付	13,360	99.5	13,724	99.6
当 座 貸 越	51	0.3	46	0.3
合 計	13,421	100.0	13,779	100.0

●有価証券種類別平均残高

(単位:百万円、%)

区 分	平成28年度		平成29年度	
	金 額	構成比	金 額	構成比
国 債	-	-	-	-
地 方 債	-	-	-	-
短 期 社 債	-	-	-	-
社 債	-	-	-	-
株 式	10	100.0	10	100.0
外 国 証 券	-	-	-	-
そ の 他 の 証 券	-	-	-	-
合 計	10	100.0	10	100.0

(注)当組合は、商品有価証券を保有していません。

●有価証券種類別残存期間別残高

(単位:百万円)

区 分		1年以内	1年超 10年以内	10年超	期間の定め のないもの
		国 債	平成28年度末	-	-
	平成29年度末	-	-	-	-
地 方 債	平成28年度末	-	-	-	-
	平成29年度末	-	-	-	-
短 期 社 債	平成28年度末	-	-	-	-
	平成29年度末	-	-	-	-
社 債	平成28年度末	-	-	-	-
	平成29年度末	-	-	-	-
株 式	平成28年度末	-	-	-	10
	平成29年度末	-	-	-	10
外 国 証 券	平成28年度末	-	-	-	-
	平成29年度末	-	-	-	-
そ の 他 の 証 券	平成28年度末	-	-	-	-
	平成29年度末	-	-	-	-
合 計	平成28年度末	-	-	-	10
	平成29年度末	-	-	-	10

●担保種類別貸出金残高及び債務保証見返額

(単位:百万円、%)

区 分	金 額	構成比	債務保証見返額	
当組合預金積金	平成28年度末	404	2.9	-
	平成29年度末	166	1.1	-
有 価 証 券	平成28年度末	-	-	-
	平成29年度末	-	-	-
動 産	平成28年度末	-	-	-
	平成29年度末	-	-	-
不 動 産	平成28年度末	890	6.5	-
	平成29年度末	686	4.8	-
そ の 他	平成28年度末	-	-	-
	平成29年度末	-	-	-
小 計	平成28年度末	1,294	9.4	-
	平成29年度末	852	6.0	-
信用保証協会・ 信用保険	平成28年度末	159	1.1	-
	平成29年度末	113	0.7	-
保 証	平成28年度末	2,311	16.9	0
	平成29年度末	2,015	14.2	0
信 用	平成28年度末	9,866	72.3	28
	平成29年度末	11,201	78.9	28
合 計	平成28年度末	13,632	100.0	28
	平成29年度末	14,182	100.0	28

●貸出金利区分別残高 (単位:百万円)

区 分	平成28年度末	平成29年度末
固 定 金 利 貸 出	11,721	12,460
変 動 金 利 貸 出	1,910	1,721
合 計	13,632	14,182

●消費者ローン・住宅ローン残高 (単位:百万円、%)

区 分	平成28年度末		平成29年度末	
	金 額	構成比	金 額	構成比
消 費 者 ロ ー ン	330	14.5	253	12.8
住 宅 ロ ー ン	1,944	85.4	1,721	87.1
合 計	2,274	100.0	1,975	100.0

●貸出金使途別残高 (単位:百万円、%)

区 分	平成28年度末		平成29年度末	
	金 額	構成比	金 額	構成比
運 転 資 金	10,599	77.7	11,756	82.8
設 備 資 金	3,032	22.2	2,425	17.1
合 計	13,632	100.0	14,182	100.0

●貸出金償却額 (単位:百万円)

項 目	平成28年度	平成29年度
貸 出 金 償 却 額	-	-

●貸倒引当金の内訳 (単位:百万円)

項 目	平成28年度末		平成29年度末	
	期末残高	増減額	期末残高	増減額
一 般 貸 倒 引 当 金	45	0	46	0
個 別 貸 倒 引 当 金	0	△0	0	-
貸 倒 引 当 金 合 計	46	0	47	0

(注)当組合は、特定海外債権を保有しておりませんので「特定海外債権引当勘定」に係る引当は行っておりません。

●貸出金業種別残高・構成比

(単位:百万円、%)

業 種 別	平成28年度末		平成29年度末	
	金 額	構成比	金 額	構成比
製 造 業	42	0.3	46	0.3
農 業、林 業	-	-	-	-
漁 業	-	-	-	-
鉱業、採石業、砂利採取業	-	-	-	-
建 設 業	32	0.2	28	0.2
電気、ガス、熱供給、水道業	-	-	-	-
情 報 通 信 業	0	0.0	0	0.0
運 輸 業、郵 便 業	10,593	77.7	11,523	81.2
卸 売 業、小 売 業	112	0.8	83	0.6
金 融 業、保 険 業	-	-	-	-
不 動 産 業	344	2.5	295	2.1
物 品 賃 貸 業	-	-	-	-
学術研究、専門・技術サービス業	1	0.0	4	0.0
宿 泊 業	-	-	-	-
飲 食 業	43	0.3	39	0.3
生活関連サービス業、娯楽業	0	0.0	1	0.0
教 育、学 習 支 援 業	-	-	-	-
医 療、福 祉	4	0.0	4	0.0
そ の 他 の サ ー ビ ス	103	0.8	131	0.9
そ の 他 の 産 業	9	0.1	8	0.1
小 計	11,289	82.8	12,167	85.8
国・地方公共団体等	-	-	-	-
個人(住宅・消費・納税資金等)	2,342	17.2	2,014	14.2
合 計	13,632	100.0	14,182	100.0

(注)業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

●金融再生法開示債権及び同債権に対する保全額

(単位:百万円、%)

区分		債権額 (A)	担保・保証等 (B)	貸倒引当金 (C)	保全額 (D)=(B)+(C)	保全率 (D)/(A)	貸倒引当金引当率 (C)/(A-B)
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	平成28年度	2	1	0	2	100.0	100.0
	平成29年度	0	-	0	0	100.0	100.0
危険債権	平成28年度	-	-	-	-	-	-
	平成29年度	-	-	-	-	-	-
要管理債権	平成28年度	93	93	-	93	100.0	-
	平成29年度	39	39	-	39	100.0	-
不良債権計	平成28年度	95	95	0	95	100.0	100.0
	平成29年度	39	39	0	39	100.0	100.0
正常債権	平成28年度	13,572					
	平成29年度	14,177					
合計	平成28年度	13,667					
	平成29年度	14,217					

- (注)1. 「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 「危険債権」とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。
3. 「要管理債権」とは、「3か月以上延滞債権」及び「貸出条件緩和債権」に該当する貸出債権です。
4. 「正常債権」とは、債務者の財政状態及び経営成績に問題がない債権で、「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」、「危険債権」、「要管理債権」以外の債権です。
5. 「担保・保証等(B)」は、自己査定に基づいて計算した担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額の合計額です。
6. 「貸倒引当金(C)」は、「正常債権」に対する一般貸倒引当金を控除した貸倒引当金です。
7. 金額は決算後(償却後)の計数です。

●リスク管理債権及び同債権に対する保全額

(単位:百万円、%)

区 分		残高 (A)	担保・保証額 (B)	貸倒引当金 (C)	保全率 (B+C) / (A)
破綻先債権	平成28年度	0	-	0	100.0
	平成29年度	0	-	0	100.0
延滞債権	平成28年度	1	1	-	100.0
	平成29年度	-	-	-	-
3か月以上延滞債権	平成28年度	93	93	-	100.0
	平成29年度	39	39	-	100.0
貸出条件緩和債権	平成28年度	-	-	-	-
	平成29年度	-	-	-	-
合 計	平成28年度	95	95	0	100.0
	平成29年度	39	39	0	100.0

- (注)1.「破綻先債権」とは、元本又は利息の支払いの遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、①会社更生法又は、金融機関等の更生手続の特例等に関する法律の規定による更生手続開始の申立てがあった債務者、②民事再生法の規定による再生手続開始の申立てがあった債務者、③破産法の規定による破産手続開始の申立てがあった債務者、④会社法の規定による特別清算開始の申立てがあった債務者、⑤手形交換所の取引停止処分を受けた債務者、等に対する貸出金です。
- 2.「延滞債権」とは、上記1.及び債務者の経営再建又は支援(以下「経営再建等」という。)を図ることを目的として利息の支払いを猶予したものの以外の未収利息不計上貸出金です。
- 3.「3か月以上延滞債権」とは、元本又は利息の支払いが約定支払日の翌日から3か月以上延滞している貸出金(上記1.及び2.を除く)です。
- 4.「貸出条件緩和債権」とは、債務者の経営再建等を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金(上記1.～3.を除く)です。
- 5.「担保・保証額(B)」は、自己査定に基づく担保の処分可能見込額及び保証による回収が可能と認められる額です。
- 6.「貸倒引当金(C)」は、リスク管理債権区分の各項目の貸出金に対して引き当てた金額を記載しており、リスク管理債権以外の貸出金等に対する貸倒引当金は含まれておりません。
- 7.「保全率(B+C) / (A)」はリスク管理債権ごとの残高に対し、担保・保証、貸倒引当金を設定している割合です。
- 8.これらの開示額は、担保処分による回収見込額、保証による回収が可能と認められる額や既に引当てている個別貸倒引当金を控除する前の金額であり、全てが損失となるものではありません。

●法令遵守の体制

●法令遵守の体制

当組合では、コンプライアンス態勢を実現するため、倫理綱領、職員行動規程、コンプライアンス・マニュアルを制定しております。また、職員のコンプライアンスに対する認識の向上のため研修を実施するなど経営の重要課題の一つに位置づけております。

当組合のコンプライアンスへの取組みの基本方針は、次のとおりとなっております。

(コンプライアンス基本方針)

法令、各種ルールを遵守した経営の遂行、協同組合による金融事業に関する法律を始め、各種関係法令に則って日々の業務を適正に運営し、地域とともに歩む信頼される金融機関として確固たる地位を築いていきます。

経営陣は、企業倫理の確立と法令遵守に向けて率先垂範して取組み、さらに、危機管理は経営陣自らの役割として自覚し、危機の実態や問題点を経営トップや幹部職員が迅速に把握できるシステムを確立します。万一、問題となる行為等が発見・指摘された場合には、事実の隠蔽や解決の遅延がリスクに直結することを強く認識し、経営陣自らの責任において、実態解明と原因追究を行い、迅速な問題解決と再発防止に向けて全力を傾注します。

コンプライアンスに対する経営陣の自覚と決意は、あらゆる機会を捉え、役職員の1人ひとりに浸透させ、組織としてコンプライアンスの風土を築いていきます。

コーポレート・ガバナンスを充実し、監事や顧問等が経営陣に対し、適時適切に意見を言える体制づくりを構築していきます。

協同組合による金融事業に関する法律・中小企業等協同組合法に掲げられた使命を遂行することにより社会的責任を全うし、地域社会に信頼される金融機関たるべく法令に準拠した事務規程等を整備し、更にリスクに強い体制を整えることにより、正確な事務運営を行います。

社会的な批判を受けるおそれの強い取引についての事前チェック体制を確立し、その経営への影響を事前に防御する体制を整備します。また、暴力団をはじめとした反社会的勢力に対しては、経営者自らが毅然とした態度をとり組織的に断固としてこれに対決するとともに、警察当局等との連携を密にします。

●苦情処理措置及び紛争解決措置の内容

●苦情処理措置

ご契約内容や商品に関する相談・苦情・お問い合わせは、お取引のある営業所または下記の窓口をご利用ください。

【窓口：大阪貯蓄信用組合総務部】

受付日：月曜日～金曜日（土・日曜日、祝日および信用組合の休業日は除く）

受付時間：9時～17時

電話：06-6396-5483

なお、苦情対応の手続については、別途リーフレットを用意しておりますのでお申し付けいただくか、当信用組合ホームページをご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.osakachochiku.com/>

●紛争解決措置

東京弁護士会 紛争解決センター（電話：03-3581-0031）、第一東京弁護士会 仲裁センター（電話：03-3595-8588）、第二東京弁護士会 仲裁センター（電話：03-3581-2249）で紛争の解決を図ることも可能ですので、ご利用を希望されるお客さまは、上記大阪貯蓄信用組合総務部または下記窓口までお申し出ください。

【窓口：(社)全国信用組合中央協会 しんくみ苦情等相談所】

受付日：月曜日～金曜日（土・日曜日、祝日および協会の休業日は除く）

受付時間：9時～17時

電話：03-3567-2456

住所：〒104-0031 東京都中央区京橋1-9-1（全国信用組合会館内）

●リスク管理体制

一定性的事項一

- ・自己資本調達手段の概要
- ・自己資本の充実度に関する評価方法の概要
- ・信用リスクに関する事項
- ・信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要
- ・派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関するリスク管理の方針及び手続の概要…該当事項なし
- ・証券化エクスポージャーに関する事項…該当事項なし
- ・オペレーショナル・リスクに関する事項
- ・協同組合による金融事業に関する法律施行令(昭和五十七年政令第四十四号)第三条第五項第三号に規定する出資その他これに類するエクスポージャー又は株式等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要
- ・金利リスクに関する事項

●自己資本調達手段の概要

発行主体	大阪貯蓄信用組合
資本調達手段の種類	普通出資
コア資本に係る基礎項目の額に算入された額	611百万円
償還期限	—
一定の事由が生じた場合に償還等を可能とする特約がある場合は、その概要	—

注. 当組合の自己資本は、出資金及び利益剰余金により構成されております。

●自己資本の充実度に関する評価方法の概要

地域のお客様からの出資金及び事業における利益により自己資本は構成されております。当期の自己資本比率は国内基準を超える10.20%となりました。経営の健全性・安全性が保てているものと評価しております。今後も引き続き事業方針である地域の発展に奉仕し、堅実経営に徹することにより収益の向上に努め、自己資本の充実を図ってまいります。

●信用リスクに関する事項

リスクの説明及びリスク管理の方針	信用リスクとは、取引先の倒産や財務状況の悪化により、当組合の資産が減少ないし消失し、損失を受けるリスクのことをいいます。
管理体制	当組合では、信用リスクを当組合が管理すべき最重要のリスクであるとの認識の上、安全性、公共性、流動性、成長性、収益性の5原則に則った厳正な与信判断を行うべく、与信業務の普遍的かつ基本的な理念・指針・規範等を明示した「信用リスク管理方針」を制定し、広く役職員に理解と遵守を促すとともに、信用リスク管理を徹底していきます。
評価・計測	信用リスクの評価は、小口多数取引の推進によるリスク分散の他、自己査定結果に基づく管理を行っております。一連の信用リスク管理の状況については、ALM委員会で協議検討するとともに、必要に応じて理事会に報告する態勢を整備しております。

■貸倒引当金の計算基準

信用リスクである貸倒引当金は、「自己査定基準書」及び「償却・引当の計上基準書」に基づき、自己査定における債務者区分ごとに算定しております。一般貸倒引当金は、協同組合組織金融機関の貸倒引当金の特例措置として認められた法定繰入率及び割増措置により計上しております。

■リスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関等の名称

適格格付機関は使用しておりません。

■エクスポージャーの種類ごとのリスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関等の名称

エクスポージャーの種類ごとに適格格付機関は使用しておりません。

■信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

信用リスク削減手法とは、組合が抱えている信用リスクを軽減化するための措置をいい、具体的には、預金担保、有価証券担保、保証などが該当します。当組合では、融資の取上げに際し、資金使途、返済原資、財産・負債状況など、さまざまな角度から可否の判断をしており、担保や保証による保全措置は、あくまでも補完的な位置づけとして認識しております。したがって、担保又は保証に過度に依存しないような融資の取上げ姿勢に徹しております。ただし、与信審査の結果、担保又は保証が必要な場合には、お客様への十分な説明とご理解をいただいた上で、ご契約いただくなど適切な取扱いに努めております。

当組合が扱う担保には、自組合預金積金、不動産等、保証には、人的保証、政府関係機関保証、民間保証があり、「自己査定基準書」等により適切な評価を行っております。

また、与信取引に関して、お客様が期限の利益を失われた場合には、当該与信取引の範囲において、預金相殺を用いる場合があります。この際、信用リスク削減方策の一つとして、組合が定める各種約定書等に基づき、法的に有効である旨確認の上、事前の通知や諸手続きを省略して払戻充当いたします。

信用リスク削減手法には、適格担保として自組合預金積金が該当します。また、信用リスク削減手法の適用に伴う信用リスクの集中に関しては、エクスポージャーの種類に偏ることなく分散されるよう努めております。

■派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関するリスク管理の方針及び手続の概要

該当事項なし

●証券化エクスポージャーに関する事項

該当事項なし

●オペレーショナル・リスクに関する事項

リスクの説明 及びリスク管理の方針	当組合では、オペレーショナルリスクを「金融機関業務の過程、役職員の活動、もしくはシステムが不適切であること又は外生的な事象により損失を被るリスク」と定義しています。
管理体制	オペレーショナルリスクについては、リスク管理委員会等において協議・検討するとともに、必要に応じて理事会等において報告する態勢を整備しております。
評価・計測	当組合は、当面基礎的手法を採用することとし、態勢を整備しております。

■オペレーショナル・リスク相当額の算出に使用する手法の名称

当組合は、基礎的手法を採用しております。

●出資その他これに類するエクスポージャー又は株式等エクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要に関する事項

リスクの説明 及びリスク管理の方針	出資その他これに類するエクスポージャー又は株式等エクスポージャーにあたるものは、非上場株式、全国信用協同組合連合会などへの出資金が該当します。「余裕資金運用規程」に基づき厳格な運用、管理を行っています。保守的な投資に限定するものとし、また収益性だけでなく、安全性、流動性等市場リスクにも十分配慮しています。理事会が定める運用方針に則り、モニタリング・分析を行い、必要に応じて理事会に報告を行っています。
管理体制	
評価・計測	

●金利リスクに関する事項

リスクの説明 及びリスク管理の方針	当組合では、金利リスクを「金利変動により損失を被るリスク」と定義しています。理事会が金利リスク管理に関する重要な事項を決定し、その方針に則り、リスク管理委員会が金利リスクのモニタリング・分析を行い、定期的に理事会に報告を行っています。
管理体制	
評価・計測	

■内部管理上使用した金利リスクの算定手法の概要

当組合において主な変数である金利リスクの計測はSKC-VaR(有利息資産・負債のギャップ)から提供されたものです。この計算は確率99%として、予想最大損失額に基づいて分析し、取得したリスク量がリスク限度額の範囲内となるようALMを行っております。

当組合が設定している観測期間	2年
当組合が設定している保有期間	21日
当組合が設定している信頼区間	99%

(単位:百万円)

	平成28年度	平成29年度
金利リスクに関して内部管理上使用した金利ショックに対する損益・経済価値の増減額	△ 20	△ 25

(注)金利リスクは、金融機関の保有する資産・負債のうち、市場金利に影響を受けるもの(例えば、貸出金、有価証券、預金等)が、金利ショックにより発生するリスク量を見るものです。

●資料編
●リスク管理体制
一定量的事項

・自己資本の構成に関する開示事項…自己資本の充実の状況P.14をご参照ください
 ・自己資本の充実度に関する事項
 ・信用リスク(信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャー及び証券化エクスポージャーを除く。)に関する事項
 ・信用リスク削減手法に関する事項
 ・派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項…該当事項なし
 ・証券化エクスポージャーに関する事項
 ・出資等又は株式等エクスポージャーに関する事項
 ・信用リスク・アセットのみなし計算が適用されるエクスポージャーの額…該当事項なし
 ・金利リスクに関して信用協同組合等が内部管理上使用した金利ショックに対する損益又は経済価値の増減額…P.30をご参照ください

●自己資本の充実度に関する事項

(単位:百万円)

	平成28年度		平成29年度	
	リスク・アセット	所要自己資本額	リスク・アセット	所要自己資本額
イ. 信用リスク・アセット、所要自己資本の額合計	13,575	543	14,087	563
① 標準的手法が適用されるポートフォリオごとのエクスポージャー	13,569	542	14,086	563
(i) ソブリン向け	11	0	8	0
(ii) 金融機関向け	1,026	41	856	34
(iii) 法人等向け	10,593	423	11,505	460
(iv) 中小企業等・個人向け	198	7	122	4
(v) 抵当権付住宅ローン	624	24	567	22
(vi) 不動産取得等事業向け	2	0	-	-
(vii) 三月以上延滞等	94	3	39	1
(viii) 出資等	12	0	12	0
出資等のエクスポージャー	12	0	12	0
重要な出資のエクスポージャー	-	-	-	-
(ix) 他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通出資等に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー	-	-	-	-
(x) 信用協同組合連合会の対象普通出資等であってコア資本に係る調整項目の額に算入されなかった部分に係るエクスポージャー	-	-	-	-
(xi) その他	1,004	40	973	38
② 証券化エクスポージャー	-	-	-	-
③ 経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	5	0	1	0
④ 他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	-	-	-	-
⑤ CVAリスク相当額を8%で除して得た額	-	-	-	-
⑥ 中央清算機関関連エクスポージャー	-	-	-	-
ロ. オペレーショナル・リスク	669	26	666	26
ハ. 単体総所要自己資本額(イ+ロ)	14,244	569	14,753	590

(注)1. 所要自己資本の額=リスク・アセットの額×4%

2. 「エクスポージャー」とは、資産(派生商品取引によるものを除く)並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額です。

3. 「ソブリン」とは、中央政府、中央銀行、地方公共団体、地方公共団体金融機構、我が国の政府関係機関、土地開発公社、地方住宅供給公社、地方道路公社、外国の中央政府以外の公共部門(当該国内においてソブリン扱いになっているもの)、国際開発銀行、国際決済銀行、国際通貨基金、欧州中央銀行、欧州共同体、信用保証協会等のことです。

4. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「ソブリン向け」、「金融機関及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」においてリスク・ウェイトが150%になったエクスポージャーのことです。

5. 「その他」とは、(i)～(x)に区分されないエクスポージャーです。

6. オペレーショナル・リスクは、当組合は基礎的手法を採用しています。

$$\frac{\text{〈オペレーショナル・リスク(基礎的手法)の算定方法〉}}{\text{粗利益(直近3年間のうち正の値の合計額)} \times 15\%} \div 8\% \\ \text{直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数}$$

7. 単体総所要自己資本額=単体自己資本比率の分母の額×4%

●一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

当組合では、自己資本比率算定にあたり、投資損失引当金・偶発損失引当金を一般貸倒引当金あるいは個別貸倒引当金と同様のものとして取扱っておりますが、P.23の「一般貸倒引当金、個別貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額」及びP.33の「業種別の個別貸倒引当金及び貸出金償却の額等」には当該引当金の金額は含めておりません。

●業種別の個別貸倒引当金及び貸出金償却の額等

(単位:百万円)

業種別	個別貸倒引当金										貸出金償却	
	期首残高		当期増加額		当期減少額				期末残高			
	平成28年度	平成29年度	平成28年度	平成29年度	目的使用		その他		平成28年度	平成29年度	平成28年度	平成29年度
製 造 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
農 業、 林 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
漁 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鉱 業、 採 石 業、 砂 利 採 取 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
建 設 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
電 気、 ガ ス、 熱 供 給、 水 道 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
情 報 通 信 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
運 輸 業、 郵 便 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
卸 売 業、 小 売 業	0	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-
金 融 業、 保 険 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
不 動 産 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
物 品 質 貸 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学 術 研 究、 専 門・ 技 術 サ ー ビ ス 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宿 泊 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
飲 食 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
生 活 関 連 サ ー ビ ス 業、 娯 楽 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
教 育、 学 習 支 援 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
医 療、 福 祉	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
そ の 他 の サ ー ビ ス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
そ の 他 の 産 業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
国・ 地 方 公 共 団 体 等	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合 計	0	0	0	0	-	-	0	0	0	0	-	-

(注)1. 当組合は、国内の限定されたエリアにて事業活動を行っているため、「地域別」の区分は省略しております。
 2. 業種別区分は日本標準産業分類の大分類に準じて記載しております。

(単位:百万円)

●リスク・ウェイトの区分ごとのエクスポージャーの額等

告示で定めるリスク・ウェイト区分(%)	エクスポージャーの額			
	平成28年度		平成29年度	
	格付適用有り	格付適用無し	格付適用有り	格付適用無し
0%	-	779	-	636
10%	-	119	-	83
20%	-	5,134	-	4,286
35%	-	1,784	-	1,621
50%	-	-	-	-
75%	-	275	-	169
100%	-	12,241	-	13,047
150%	-	-	-	-
250%	-	3	-	3
1250%	-	-	-	-
その他	-	0	-	0
合 計	-	20,338	-	19,848

- (注)1. 格付は、適格格付機関が付与しているものに限ります。
 2. エクスポージャーは、信用リスク削減手法適用後のリスク・ウェイトに区分しています。
 3. コア資本に係る調整項目となったエクスポージャー(経過措置による不算入分を除く)、CVAリスクおよび中央清算機関関連エクスポージャーは含まれておりません。

●信用リスク削減手法に関する事項

●信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー

(単位:百万円)

ポートフォリオ	適格金融資産担保		保 証		クレジット・デリバティブ	
	平成28年度	平成29年度	平成28年度	平成29年度	平成28年度	平成29年度
信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャー	538	526	-	-	-	-

- (注)1. 当組合は、適格金融資産担保について簡便手法を用いています。
 2. 上記「保証」には、告示(平成18年金融庁告示第22号)第45条(信用保証協会、農業信用基金協会、漁業信用基金協会により保証されたエクスポージャー)、第46条(株式会社地域経済活性化支援機構等により保証されたエクスポージャー)を含みません。

●派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項

該当事項なし

●証券化エクスポージャーに関する事項

該当事項なし

●出資等エクスポージャーに関する事項

●貸借対照表計上額及び時価等

(単位:百万円)

区 分	平成28年度		平成29年度	
	貸借対照表計上額	時 価	貸借対照表計上額	時 価
上 場 株 式 等	-	-	-	-
非 上 場 株 式 等	106	-	106	-
合 計	106	-	106	-

- (注)投資信託等の複数の資産を裏付とするエクスポージャー(いわゆるファンド)のうち、上場・非上場の確認が困難なエクスポージャーについては、非上場株式等を含めて記載しています。

●出資等エクスポージャーの売却及び償却に伴う損益の額

(単位:百万円)

	平成28年度	平成29年度
売 却 益	-	-
売 却 損	-	-
償 却	-	-

- (注)損益計算書における損益の額を記載しております。

●貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位:百万円)

	平成28年度	平成29年度
評 価 損 益	-	-

- (注)「貸借対照表で認識され、かつ、損益計算書で認識されない評価損益の額」とは、その他有価証券の評価損益です。

●貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額

(単位:百万円)

	平成28年度	平成29年度
評 価 損 益	-	-

- (注)「貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額」とは、子会社株式及び関連会社の評価損益です。

●外国為替取扱高

(単位:千ドル)

区 分		平成28年度	平成29年度
貿 易	易	-	-
	輸 出	-	-
	輸 入	-	-
貿 易 外		-	-
合 計		-	-

●外貨建資産残高

(単位:千ドル)

項 目	平成28年度	平成29年度
外 貨 建 資 産 残 高	-	-

●公共債引受額

(単位:百万円)

項 目	平成28年度	平成29年度
国 債	-	-

(注)地方債、政府保証債は取り扱っておりません。

●公共債窓販実績

(単位:百万円)

項 目	平成28年度	平成29年度
国 債 ・ そ の 他 公 共 債	-	-

●代理貸付残高の内訳

(単位:百万円)

区 分	平成28年度末	平成29年度末
全国信用協同組合連合会	-	-
株式会社商工組合中央金庫	-	-
株式会社日本政策金融公庫	1	0
独立行政法人住宅金融支援機構	-	-
独立行政法人勤労者退職金共済機構	-	-
独立行政法人福祉医療機構	-	-
そ の 他	-	-
合 計	1	0

平成29年度末公庫・事業団等別貸出残高構成比

■全国信用協同組合連合会	-%
■株式会社商工組合中央金庫	-%
■株式会社日本政策金融公庫	100%
■独立行政法人住宅金融支援機構	-%
■独立行政法人勤労者退職金共済機構	-%
■独立行政法人福祉医療機構	-%
■その他	-%

●財務諸表の適正性及び内部監査の有効性

私は当組合の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの第66期の事業年度における貸借対照表、損益計算書及び剰余金処分計算書の適正性、及び同書類作成に係る内部監査の有効性を確認いたしました。

平成30年6月20日
大阪貯蓄信用組合

代表理事 古知 貴恵子

●法定監査の状況

当信用組合は、協同組合による金融事業に関する法律第5条の8第3項に規定する法定監査は義務づけられておりませんので、監事による監査を実施しております。

●手数料一覧

(平成30年6月現在)

種 類		組 合 員	一 般		
振 込	当組合 本支店	自店宛	5万円未満 5万円以上	- 円 - 円	- 円 - 円
		他店宛	5万円未満 5万円以上	108 円 324 円	108 円 324 円
	他行		電信扱	5万円未満 5万円以上	540 円 756 円
		本支店		- 円	- 円
	送 金	他 行	電信扱	- 円	- 円
			普通扱(送金小切手)	- 円	- 円
代 金 取 立	本支店	自店宛	- 円	- 円	
		他店宛	- 円	- 円	
	他 行	同一交換所における手形		216 円	216 円
		その他地域	至急扱	864 円	864 円
			普通扱	864 円	864 円
そ の 他	振込・送金・取立手形の組戻料 不渡手形返却料 取立手形店頭呈示料		648 円	648 円	
種 類			料 金		
当座預金	小切手帳	1冊(50枚)	648 円		
	約束手形帳	1冊(25枚)	540 円		
	マル専口座取扱手数料	(割賦販売通知書1枚)	540 円		
	マル専手形	(1枚につき)	540 円		
自己宛小切手			540 円		
通帳証書等再発行			1,080 円		
カード再発行			1,080 円		
証明書発行手数料	残高証明書	1通	324 円		
	融資証明書	1通	324 円		
	その他証明書	1通	324 円		
夜 間 金 庫 (月 額)			- 円		
CD・ATM手数料(セブン銀行ATM)		料金			
平日18時まで(土曜14時まで)		- 円			
平日18時以降(土曜14時以降)		108 円			
日曜日		108 円			

(上記の手数料には消費税を含んでいます)

●内国為替取扱実績

(単位:百万円)

区 分	平成28年度末		平成29年度末		
	件 数	金 額	件 数	金 額	
送 金 ・ 振 込	他 の 金 融 機 関 向 け	26,097	8,893	25,863	8,525
	他 の 金 融 機 関 か ら	19,850	10,039	19,378	9,170
代 金 取 立	他 の 金 融 機 関 向 け	5	22	4	20
	他 の 金 融 機 関 か ら	55	27	61	32

●主要な事業の内容

A. 預金業務

(イ)預金・定期積金

当座預金、普通預金、通知預金、定期預金、定期積金、別段預金、納税準備預金等を取扱っております。

(ロ)譲渡性預金

取扱っておりません。

B. 貸出業務

(イ)貸付

手形貸付、証書貸付及び当座貸越を取扱っております。

(ロ)手形の割引

銀行引受手形、商業手形及び荷付為替手形の割引を取扱っております。

C. 商品有価証券売買業務

取扱っておりません。

D. 有価証券投資業務

投資しておりません。

E. 内国為替業務

送金為替、当座振込及び代金取立等を取扱っております。

F. 外国為替業務

全国信用協同組合連合会の取次業務として輸出、輸入及び外国送金その他外国為替に関する各種業務を行っております。

G. 社債受託及び登録業務

取扱っておりません。

H. 金融先物取引等の受託等業務

取扱っておりません。

I. 附帯業務

(イ)債務の保証業務

(ロ)個人向け国債の募集の取扱業務

(ハ)代理業務

(a)全国信用協同組合連合会、(株)日本政策金融公庫、(株)商工組合中央金庫等の代理貸付業務

(b)独立行政法人中小企業基盤整備機構の代理店業務

(ニ)地方公共団体の公金取扱業務

●当組合の子会社

該当事項なし

●地域に貢献する信用組合の経営姿勢

私たちは、地元、組合員のお客さまを取り巻く、経済、環境、社会など幅広い分野でのニーズの変化を捉え、お客さまからの期待に応えるよう、CSR経営を推進しています。

当組合はその一環として「金融機関業務を通じて地域の発展に貢献していく」という基本的な考え方のもと、地域との共存共栄、持続可能なまちでの地域貢献を目指しています。

地域に貢献する信用組合として以下の項目に沿って具体的な施策に取り組み、地域密着型金融を推進してまいります。

(1) ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化

創業支援、経営改善支援、事業再生等、お取引先企業の成長段階にあわせた支援機能の強化を図ってまいります。

(2) 事業価値を見極める融資手法をはじめ、中小企業、個人事業主に適した資金供給方法の徹底

信用組合の特徴的業務「集金」も変わらずおこなっております。お客さまとface to faceのお付き合い、いつでも「出前します」の姿勢でお客さまのニーズにお答えするよう体制を整えております。信用リスクの計数化により不動産担保・個人保証に過度に依存しない融資の徹底を図るとともに、新しいスキームの融資商品に積極的に取り組み、個人事業主さま、中小・零細企業への円滑な資金供給に努めます。

(3) 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

渉外係が目と耳でお伺いした情報を活用し、組合でできる限りのネットワークを活かし、情報提供等を通じ、地域の活性化に貢献してまいります。

(4) 人・動物・植物に優しい信用組合

店舗のバリアフリー化への取り組み、ペット同伴入店可能(但し他のお客さまのご迷惑にならない場合のみ)、「出前します」はもちろん個人のお客さまにもよろこんで。ご高齢等でご来店が難しい場合はお気軽にお電話ください。社会貢献型クレジットカード「ピーターパンカード」もお作りしております。

●融資を通じた地域貢献

当組合の融資キーワードは“地域”。

本店営業部、生野支店、東支店では自転車で営業活動を行っております。自転車をツールとしているのは「点」の営業ではなく、万遍のない「面」の営業を営業担当職員自身が希望するからです。

ご融資している地域の中・小・零細企業、個人事業主さまの業種は実に多岐に渡り、実際に利用可能なプロダクトを提供されている場合は経営陣が使って見て、食べてみて、その感触などお役に立てる情報提供をし、組合も「いいもの生産」「ものづくり」に参加しています。

商品を拝見すること、Go かWait か、こんなface to faceな融資姿勢が地域金融機関ならではと思っています。数字のみではない定性分析、商品の将来の売れ見込みを肌で審査する、高度な信用リスク管理にこんなスパイスも加味し、多くの角度から判断し、ご融資等お役に立つよう日々努力しています。

●文化的・社会的貢献に関する活動

- ・生野ふれあい夏祭り協賛
- ・諏訪神社 夏、秋祭り協賛
- ・西三国、東三国福祉協議会盆踊り大会協賛
- ・赤い羽根共同募金協賛
- ・永田地区地車巡業協賛
- ・諏訪盆踊り大会協賛
- ・第28回銀座夏祭り参加
- ・生野地区神輿、地車巡業協賛

●経営改善支援等の取組み実績

(単位:先数、%)

期初債務者数(A)	うち経営改善支援取組み先(α)			経営改善支援取組み率 (α/A)	ランクアップ率 (β/α)	再生計画策定率 (δ/α)
	αのうち期末に債務者区分がランクアップした先数(β)	αのうち期末に債務者区分が変化しなかった先(γ)	αのうち再生計画を策定した先数(δ)			
52	-	-	-	-	-	-

(注) 1. 本表の「債務者数」、「先数」は、正常先を除く計数です。

2. 期初債務者数は平成29年4月当初の債務者数です。
3. 債務者数、経営改善支援取組み先数は、取引先企業(個人事業主を含む。)であり、個人ローン、住宅ローンなどのみの先は含んでおりません。
4. 「α(アルファ)のうち期末に債務者区分がランクアップした先数β(ベータ)」は、当期末の債務者区分が期初よりランクアップした先です。なお、経営改善支援取組み先で中に完済した債務者はαには含みますがβには含んでおりません。
5. 「αのうち期末に債務者区分が変化しなかった先γ(ガンマ)」は、期末の債務者区分が期初と変化しなかった先です。
6. 「αのうち再生計画を策定した先数δ(デルタ)」は、αのうち中小企業再生支援協議会の再生計画策定先、RCCの支援決定先、当組合独自の再生計画策定先の合計先数です。
7. 期中に新たに取引を開始した取引先は、本表に含みません。

●中小企業の経営支援に関する取組み方針

当組合は、地域密着金融機関として、最も頼れる相談相手として、お客様の悩みと一緒に考え問題解決に努める為、お客様からの新規融資や貸付条件の変更等のご相談や申込みに対し、積極的に対応して取組んでおり、全役職員が組織を挙げて真摯に対応いたしております。

●中小企業の経営支援に関する態勢整備の状況

平成25年3月21日、中小企業の新たな事業活動の促進に関する法律に基づき、経営革新等支援機関として認定されました。

●中小企業の経営支援に関する取り組み状況

●創業・新規事業開拓の支援

実績ありません。

●成長段階における支援

実績ありません。

●経営改善・事業再生・業種転換等の支援

実績ありません。

●「経営者保証に関するガイドライン」への対応

当組合では、「経営者保証に関するガイドライン」の趣旨や内容を十分に踏まえ、ガイドラインの趣旨や内容をお客様への十分な説明により、理解を頂くことで経営者保証に依存しない融資の促進を図っております。

●「経営者保証に関するガイドライン」の活用に係る取り組み事例(平成29年度)

1. 取り組み内容

平成29年度において、取り組み事例はございません。

●「経営者保証に関するガイドライン」の取り組み状況

	平成28年度	平成29年度
新規に無保証で融資した件数	10件	13件
新規融資に占める経営者保証に依存しない融資の割合	10.9%	7.5%
保証契約を解除した件数	0件	0件
経営者保証に関するガイドラインに基づく保証債務整理の成立件数 (当組合をメイン金融機関として実施したものに限る)	0件	0件

●地域の活性化に関する取組状況

平成29年10月17日、大阪市中央公会堂大集会室にて尾車親方・日本相撲協会理事・事業部長 尾車 浩一氏を講師に迎え、講演会が開催されました。(一般社団法人大阪府信用組合協会主催)

●店舗一覧表(事務所の名称・所在地)

(自動機器設置状況)(平成30年6月現在)

店名	住所	電話	CD・ATM
本店営業部	〒532-0006 大阪市淀川区西三国1-21-40	06-6396-5481	2台
生野支店	〒544-0025 大阪市生野区生野東4-6-24	06-6741-2255	2台
東支店	〒536-0021 大阪市東成区神路1-6-16	06-6978-1616	1台

店外CD・ATM店

該当事項なし

●地区一覧

大阪府大阪市
東大阪市
守口市
吹田市
八尾市
豊中市
茨木市
高槻市
兵庫県尼崎市

●索引

各開示項目は、下記のページに記載しております。なお、*印は「協金法第6条で準用する銀行法第21条」「金融再生法」に基づく開示項目、**印は「監督指針の要請」に基づく開示項目、無印は任意開示項目です。

■ごあいさつ	1
【概況・組織】	
1. 事業方針	2
2. 事業の組織*	3
3. 役員一覧(理事及び監事の氏名・役職名)*	4
4. 会計監査人の氏名又は名称*	4
5. 店舗一覧(事務所の名称・所在地)*	41
6. 自動機器設置状況	41
7. 地区一覧	41
8. 組合員数	4
9. 子会社の状況	37
【主要事業内容】	
10. 主要な事業の内容*	37
11. 信用組合の代理業者*	取扱いなし
【業務に関する事項】	
12. 事業の概況*	4
13. 経常収益*	15
14. 業務純益	13
15. 経常利益*	15
16. 当期純利益(損失)*	15
17. 出資総額、出資総口数*	15
18. 純資産額*	15
19. 総資産額*	15
20. 預金積金残高*	15
21. 貸出金残高*	15
22. 有価証券残高*	15
23. 単体自己資本比率*	15
24. 出資配当金*	15
25. 職員数*	15
【主要業務に関する指標】	
26. 業務粗利益及び業務粗利益率*	12
27. 資金運用収支、役務取引等収支及びその他業務収支*	12
28. 資金運用勘定・資金調達勘定の平均残高、利息、利回り、資金利鞘*	15.16
29. 受取利息、支払利息の増減*	13
30. 役務取引の状況	13
31. その他業務収益の内訳	19
32. 経費の内訳	13
33. 総資産経常利益率*	16
34. 総資産当期純利益率*	16
【預金に関する指標】	
35. 預金種目別平均残高*	20
36. 預金者別預金残高	20
37. 財形貯蓄残高	20
38. 職員1人当り預金残高	19
39. 1店舗当り預金残高	19
40. 定期預金種類別残高*	20
【貸出金等に関する指標】	
41. 貸出金種類別平均残高*	21
42. 担保種類別貸出金残高及び債務保証見返額*	22
43. 貸出金金利区分別残高*	23
44. 貸出金使途別残高*	23
45. 貸出金業種別残高・構成比*	24

46. 預貸率(期末・期中平均) *	19
47. 消費者ローン・住宅ローン残高	23
48. 代理貸付残高の内訳	35
49. 職員1人当り貸出金残高	19
50. 1店舗当り貸出金残高	19
【有価証券に関する指標】	
51. 商品有価証券の種類別平均残高 *	取扱いなし
52. 有価証券の種類別平均残高 *	21
53. 有価証券種類別残存期間別残高 *	21
54. 預証率(期末・期中平均) *	19
【経営管理体制に関する事項】	
55. 法令遵守の体制 *	27
56. リスク管理体制 *	28.29.30
資料編	31.32.33.34
57. 苦情処理措置及び紛争解決措置の内容 *	27
【財産の状況】	
58. 貸借対照表、損益計算書、剰余金処分計算書 *	5.6.7.8.9.10.11.12
59. リスク管理債権及び同債権に対する保全額 *	26
(1) 破綻先債権	26
(2) 延滞債権	26
(3) 3か月以上延滞債権	26
(4) 貸出条件緩和債権	26
60. 金融再生法開示債権及び同債権に対する保全額 *	25
61. 自己資本充実の状況(自己資本比率明細) *	14
62. 有価証券、金銭の信託等の評価 *	17.18.19
63. 外貨建資産残高	35
64. オフバランス取引の状況	16
65. 先物取引の時価情報	16
66. オプション取引の時価情報	取扱いなし
67. 貸倒引当金(期末残高・期中増減額) *	23
68. 貸出金償却の額 *	23
69. 財務諸表の適正性及び内部監査の有効性について * *	35
70. 会計監査人による監査 *	35
【その他の業務】	
71. 内国為替取扱実績	36
72. 外国為替取扱実績	35
73. 公共債窓販実績	35
74. 公共債引受額	35
75. 手数料一覧	36
【その他】	
76. 沿革・歩み	1
77. 継続企業の前提の重要な疑義 *	該当なし
【地域貢献に関する事項】	
78. 地域貢献(信用組合の社会的責任(CSR)に関する事項等) * *	38
79. 地域密着型金融の取組み状況 * *	38
80. 中小企業の経営の改善及び地域の活性化のための取組み状況 *	39.40
81. 「経営者保証に関するガイドライン」への対応について * *	40

大阪貯蓄信用組合

〒532-0006 大阪市淀川区西三国1丁目21番40号

TEL:06-6396-5483 FAX:06-6396-5592

<http://osakachochiku.com>